

原発関連の動き

(赤：国外関連、青：地震など関連情報、緑：事故など)

「2024 月 6 月」

2024 年

- 6 月 1 日 午前 4 時 02 分ごろ、豊後水道を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは 4.5 と推定。高知県宿毛市で震度 4、愛媛県宇和島市、松野町、鬼北町、愛南町で震度 3。
- 6 月 1 日 女川原発が立地する宮城県と女川町、石巻市が、安全協定に基づき立ち入り調査した。使用済み核燃料を保管する乾式貯蔵施設の建設予定地や 1 号機の廃止措置状況を確認した
- 6 月 3 日 午前 6 時 31 分ごろ、石川県能登地方を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは 5.9 と推定。石川県輪島市、珠洲市で震度 5 強、石川県能登町で震度 5 弱、新潟県長岡市、柏崎市、十日町市、上越市、刈羽村、石川県七尾市、穴水町で震度 4、福島県から長野県など広域で震度 3。
- 6 月 3 日 午前 6 時 40 分ごろ、能登半島沖を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは 4.8 と推定。石川県珠洲市で震度 4、石川県輪島市能登町で震度 3。
- 6 月 3 日 九州電力が、定期点検を行っていた玄海原発 4 号機での発電を再開させた。
- 6 月 3 日 国際原子力機関 (IAEA) のグロッシ事務局長が、ウクライナのザポロジエ原子力発電所について、周辺で戦闘が継続している限り再稼働は危険と述べた。欧州最大の原発であるザポロジエ原発は安全上の理由による IAEA の勧告に基づき原子炉 6 基が停止している。
- 6 月 4 日 福島第一原発で行われていた通算 6 回目となる汚染処理水の海洋放出 (本年度 2 回目) が完了した。東京電力発表では、放出量は 7892 トン。
- 6 月 5 日 原子力規制委員会が、高浜原発 3、4 号機の蒸気発生器を交換する計画を許可した。蒸気発生器は加圧水型原発の重要設備。内部にある伝熱管の損傷が相次いだため、関電は 2026 年度の定期検査で取り換える方針。
- 6 月 5 日 21 時 54 分ごろ、栃木県南部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは 4.1 と推定。茨城県桜川市、栃木県宇都宮市、鹿沼市、高根沢町で震度 3。

- 6月6日 午前9時03分ごろ、千葉県東方沖を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.7と推定。千葉県旭市、匝瑳市、香取市で震度3。
- 6月6日 新潟県の花角英世知事が、原子力規制委員会で検討する原発事故時の屋内退避のあり方について、多くの家屋倒壊が起きた能登半島地震の教訓を踏まえるよう求めた。
- 6月6日 マサチューセッツ工科大のスコット・ケンプ准教授ら科学者5人が、次世代型原発の燃料として注目が高まっている高純度低濃縮ウラン(HALEU)についての論文を発表した。濃縮せずに核兵器製造に直接使えるとし、国際的な核不拡散体制を脅かしかねないと警鐘を鳴らすという内容。
- 6月6日 伊藤信太郎原子力防災担当相が新潟県の花角英世知事と面会し、県などが求めていた柏崎刈羽原発事故時の避難路整備について、国が費用の全額を負担すると伝えた。
- 6月6日 東京電力が、IAEAの柏崎刈羽原発で行った調査の結果について発表した。報告書では、柏崎刈羽原発のテロ対策について「根本原因に対処した」と結論付けているという。
- 6月7日 東京電力が、福島第一原発で相次いだトラブルを受けて、構内の全ての作業を対象に行っていた点検が完了した結果、全体の約7割の約680件で改善点が見つかった。6月中にマニュアルに反映させるとしている。
- 6月7日 敦賀原発2号機の再稼働をめぐり、敷地内にある断層が原子炉の真下につながっているかなど結論を出すために原子力規制委員会が行っていた現地調査が終了した。原子炉の真下に活断層がある可能性を否定できないと判断されれば、原子力規制委員会は初めて再稼働を「不許可」とする可能性があり、今回の現地調査の結果を踏まえ、7月末までに結論が出される見通し。
- 6月7日 高速増殖原型炉「もんじゅ」の敷地に計画されている研究用原子炉について、日本原子力研究開発機構が、整備費用の概算が1500億円規模に上るとした。全額が国費負担。